

個別評価票

協議会名：熊本市におけるバス交通のあり方検討協議会

I. 実施事業	
①事業の実績	
・事業実施開始時期	
平成23年9月	
・実施期間	
平成23年9月から平成24年3月まで	
・事業概要（実証運行にあつては、運行エリア（可能であれば路線図も）・運賃・運行時間帯・その他利用促進活動等特徴的な取組）事業計画どおりとならなかった部分があれば、その旨及びその理由を記載。	
【事業概要】 概要：バス路線図や乗換え情報、時刻表等を掲載した資料を配布し、公共利用促進の啓発活動を行った。また、アンケート調査を行うことで交通行動の変化を促した。 対象地区：第一環状・中央環状線沿線に立地する熊本学園大学の学生・教職員	モビリティマネジメントの実施 対象：熊本学園大学 学生数：約7,000人 教職員数：約300人  学園大ライナー 平成23年10月3日運行開始 1日5往復（平日のみ） 運賃：大人100円 小人50円 
II. 具体的成果	
①事業名：モビリティマネジメントの実施	
・設定した目標（総合事業計画で設定した目標を記載）	
減少傾向にあるバス利用者を増加に転じさせるため、モビリティマネジメントを通じて、自家用車から公共交通機関への利用転換を図る。	

・事業成果(総合事業計画で設定した目標の達成状況を裏付ける指標を記載。事業実施の際に抽出したデータを記載する。可能な範囲で事業実施前後の指標の変化や、事業実施中の変化等も分析)
平成23年10月に、第一環状・中央環状沿線に立地する熊本学園大学の学生・教職員に対し、「くまもとバス活用ハンドブック」を配布している。また、配布時と平成24年1月に実施したアンケートについて現在集計作業を行っている。 さらに、モビリティマネジメント実施前後における乗客数の推移等についても今後整理を行う。
・事業分析(事業成果等を踏まえ、課題や問題点、評価すべき事項)
自家用車から公共交通機関への利用転換に向けて更なる効果を上げるためには、住民に対してよりきめ細やかなコミュニケーションが必要であると認識しており、フォローアップ調査の充実などに努めたいと考えている。 本年度はバス路線図や乗換え情報、時刻表等を記載した「くまもとバス活用ハンドブック」を作成し、啓発活動を行ったところ、配布した熊本学園大学の学生・教職員から役立ったというご意見をいただいております。このことは利用転換を促すことに関して非常に効果的であった。
②事業名:
・設定した目標
・事業成果(事業から抽出したデータを記載する。可能な範囲で対比率追記)
・事業分析(事業成果等を踏まえ、課題や問題点、評価すべき事項)
Ⅲ. 次年度に向けた検討
Ⅱ. の結果を踏まえ、当該事業が目標の達成に適切であったか、翌年度に継続する際に問題点があるかについて具体的な見直し内容を明示。
モビリティマネジメントの実施は、バス利用者を増加に転じさせる施策として非常に適切な事業である。 次年度以降の利用促進策については、本事業の調査分析終了後に検討し、より効果的な手法で取り組みたい。
Ⅳ. 補助期間終了後の展望
最大3年間の計画事業補助期間終了後も自立性・持続性を保つため、補助期間終了後の展望を記載。具体的に想定される必要な財源の規模・その用途を記載。
今後の利用促進策については、この3年間の取組みを基にバス事業者や行政が独自に行う。